

マンデラ氏追悼式の手話通訳に関する WFD-WASLI 共同声明

南アフリカ前大統領ネルソン・マンデラ氏の追悼式が 2013 年 12 月 10 日火曜日に南アフリカのヨハネスブルグで行われた。世界ろう連盟(WFD)および世界手話通訳者協会(WASLI)は、この追悼式で行われた手話通訳の質を懸念する。

追悼式の様子はテレビを通して南アフリカのろう者数人に視聴されたが、ろう者たちは、この格調高い集会の手話通訳のレベルに失望している。WFD 青年部の理事であるブラーム・ジャダーン(Braam Jordaan)によると、通訳者は南アフリカ手話(SASL)を知らなかったという。「通訳者の手や顔の表情そして身体の動きの構造が、話の内容を追ったものになっていなかった」。同氏は、また、この通訳者が、いかなる専門的資格や評価、審査も経ないで選出されたことについて懸念を表明している。WFD 副会長のウィルマ・ニューホード・ドルーヘン(Wilma Newhoudt-Druchen)もテレビで追悼式の様子を見ていたが、手話通訳のレベルが貧弱であることを確認し、「この手話通訳者は何を表しているのか？ ろう者が声高にやじることはできないと彼は思っている。恥を知ってほしい。」と語った。テレビ放送では、正規な手話通訳者が画面の左側に映し出されていたので、会場にいた通訳者が SASL や他の手話をまったく知らないことが明らかになった。

WFD と WASLI は、あらゆる公共行事における質の高い手話通訳サービスの重要性に関する公式声明を発表する。ろうの聴衆に保障されている情報アクセスを確保するのは主催者の責任である。国連障害者権利条約(UNCRPD)第 21 条は、ろう者が**自分のコミュニケーションの形態を選択する権利**を有すること、締約国の政府は「公的な活動において、手話、…並びに障害者が自ら選択する他の全ての利用しやすい意思疎通の手段を用いることを受け入れ、及び容易にすること」を述べている。続けて同条は、締約国が手話の使用を承認し促進することを保障するためにあらゆる適切な手段をとることを定めている。さらに、国連障害者権利条約第 9 条では「締約国が、障害者が他の者との平等を基礎として、…情報通信…を確保するための適切な措置をとる」ことを求めている。これは、国の手話やろう文化の知識をもつ有資格の手話通訳者を意味する。

WFD および WASLI は、今回の南アフリカのケースの場合、地域のろう団体との協力が必要であることを強調したい。すなわち、研修をうけた有資格通訳者を採用すべきであること、アクセスはろう者のニーズを基礎とすべきであることを強調しておく。

以上

(*) 国連障害者権利条約の和文は、政府訳(2013 年 12 月 25 日版)に基づく。